



3月3日 耳の日 6月6日 補聴器の日 9月9日 人工内耳の日 9月23日 手話言語国際デー

佐賀国際バルーンフェスタ 第3回写真コンテスト

佐賀平野の秋の風物詩「佐賀国際バルーンフェスタ」の聴覚障害者・情報支援者限定の写真コンテストを全国に呼びかけて実施。12月15日に表彰式がありました。



『一瞬の朝焼けに映えるバルーン』

福丸宏美さん(大阪府)

🔦 最優秀賞に選んで頂き、ありがとうございました。今年、初めて会場に来て、空に色々な気球が舞うことに凄く感動しました。今回はあいにくの曇りでしたが、一瞬だけ太陽が顔を出した時は空が赤くなり、その時が一番いい時でした。この作品は自分の中で一番気に入っていたので選んで頂いて、とても嬉しいです。次は手話通訳の台があるところに座って、アナウンスを見ながら、晴れた日と夜の川に映えるバルーンを楽しみたいです。

最優秀賞

『第40回記念にバルーン選手がやってきた』

中島和次さん(佐賀県)

🔦 多重露光という技法を使い、工夫することで40周年の記念大会とバルーンを組み合わせました。受賞できると確信していました。とても嬉しいです。これからはプロと互角に戦えるように挑戦したいです。



最優秀賞

『夜明けと共に空高く』

寺井友一さん(大阪府)

審査員特別賞



優秀賞



『朝日に照らされて』

吉田敬三さん(佐賀県)

🔦 バルーン写真コンテストに申し込むのは初めてで受賞して嬉しいです。来年はカメラを狙っています。



『おかえり、気球さん!!』

宮本泰弘さん(佐賀県)

🔦 今回もスマホで勝負。今回はバルーンの上からではなく下から撮りました。

『こっちにおいでよ!』

福田里美さん(佐賀県)

🔦 なかなかバルーンに近づいてくれず母としてはしようがなしに撮った1枚でした。FOX君の温かい眼差しがほっこりした印象に変えてくれたので、とても良かったです。



審査員特別賞



『あ、踏んじやった』

寺井佳子さん(大阪府)



『君が見えなくなるまで見届けるよ』

遠山貴子さん(富山県)



『遥かなる空へ』

🔦 初めてバルーン大会を見に来ました。受賞の知らせを聞いて驚きました。お米を頂き嬉しいです。写真は趣味で、いつも星などを撮っています。



『注目!こちらが今年新しくできたバルーンです!』

三瀬暉央さん(佐賀県)

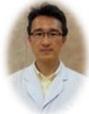
🔦 初めてで緊張しましたが、受賞出来て嬉しいです。



シリーズ (25)

山口相談医のひと言コメント

鼓膜穿孔による難聴と対策 その3



鼓 膜に開いた穴を塞ぐということについてです。まず、新しい穿孔、例えば鼓膜切開をしたとか、ボールが当たって鼓膜が破れたという場合は、自然治癒力で元どおりになることがほとんどです。

今 回取り上げている「慢性中耳炎」となると、自然治癒は期待できないので、何らかの処置・手術となります。

オーソドックスな手術は、耳たぶの後ろで切開して、鼓膜の材料になる組織の採取と、そこから奥に進んで鼓膜を見える様にして、採取した組織で穴を塞ぐ様にします。うまくいけば、時間とともに鼓膜の再生が生じて穿孔が治ります。

同 じ様な手術でも、穿孔が比較的小さい場合は違う方法があります。材料になる組織の切開・採取はしますが、外耳道から鼓膜の穿孔部位を新鮮化してそこに採取組織をはめ込むので、切開が小規模で済みます。また、耳の後ろの切開部から鼓膜のある深部に入るのではないので、傷が小さく体の負担が軽くて済みます。

最 近では、鼓膜の穿孔部の新鮮化は必要ですが、材料になる組織の採取をしなくて済むような方法・キットが実用化されています。古くは、鼓膜の穿孔の縁を少し切って、薄い膜をその穿孔に密着させて鼓膜の再生を図るということもありました。ですが、ただ密着させるだけでは上手くいかないことが多いので、このキットでは、再生を促す薬剤がセットされて、成功率を向上させているそうです。

巡回相談(ろうあ者)

2月4日(火) 嬉野市塩田町・市庁舎

みみサポーター養成講座

1月25日(土)・2月8日(土)・2月22日(土)

字幕制作ボランティア養成講座

1月22日(水)~毎週水曜 13時~16時 全6回

巡回聴こえの相談

1月22日(水) 小城市牛津公民館 10時~15時

2月12日(水) 神崎市中央公民館 10時~15時

編集後記：干支の始まりの子年、新たな気持ちでスタートです。
(M.J)

米満大九郎里帰り洋画展

1964~2019

米満画伯は杵島郡白石町出身で佐賀ろう学校で学び、高等部1年時に東京教育大付属聾学校高等部図案科へ編入、以後東京で絵描き人生を送られました。昨年夏から白石町の生家と所蔵画を同級生と整理されていたことから55年の集大成の里帰り展示会となりました。佐賀での洋画展は東北大震災の2011年に全日本ろうあ連盟の全国大会に合わせて開催された佐賀県立美術館以来9年ぶり。

1月4日に田島白石町長らの祝辞、テープカットがあった後、米満大九郎さんの「絵描き一生」のミニ講演では手話語りで一生涯を振り返られました。デビュー作の工場の裏、ライフワークのテーマ輪島の朝市の大作(100号)や北国の港、パリの街など34点が展示され、本人の解説を聞きながら見入っていました。郷里の白石町をはじめ、埼玉・東京・福岡等から多くの方が駆け付けられました。



佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目1-12 (佐賀商ビル4階)

TEL: 0952-40-7700 FAX: 0952-40-7705

メールアドレス: info@saga-mimisapo.jp

ホームページアドレス: http://saga-mimisapo.jp/

<開館時間>

9:30 ~ 18:00

<閉館日>

毎週月曜日、祝日、年末年始